

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田7条6丁目3-15		
自己評価作成日	令和3年11月18日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170200778-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかな生活をお送る事で、入居者の表情が物語っていると感じています。理念にある地域の皆様や家族の皆様との交流はコロナ禍の今は中々実施出来ませんが、散歩に出掛けた時、お目にかかる事が出来た方々には、しっかりご挨拶をして心のふれあいを大切にしています。戸外活動がままならない現況下では室内でも気分転換を楽しめるイベントを、ひと月に最低1回以上行い、生活に色を添える様に努力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄麻生駅からバスで10分程の住宅地にある1ユニットのグループホームである。建物は2階建てで、2階がグループホームとなっている。近くに保育園や小学校、高校、神社、複数の郊外型大型店舗があり、生活環境に優れている。家庭的な造りで、キッチンと居間を中心に居室が配置され、トイレが4か所、エレベーターやベランダも配置されている。トイレや浴室は窓があって明るく、浴室には広めの浴槽があり快適な環境である。職員は理念を理解し、定期的な勉強会でサービスの質の向上を図っている。職員同士のコミュニケーションも良好である。また、家族が相談しやすいよう明るく対応している。運営推進会議を現在は書面により行っているが、構成メンバーから事前に意見を収集して感染症対策、身体拘束、サービス評価などをテーマに取り上げており、議事録の作成、構成メンバーへの提供も適切に行われている。ケアマネジメントの面では、計画目標に対するモニタリング、評価をもとにした計画の更新が行われ、日々の記録も目標を意識して行われている。食事の面では、毎日30品目を意識した食材を用意して栄養バランスや季節感、彩りに配慮した食事が提供されている。新しい管理者のもと、さらなるサービスの向上に力を入れている。居心地のよい環境ときめ細かい支援のもと、安心して過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員用の机の頭上、階段途中に掲示場所を設け月曜日毎には申し継ぎ後に、その日の出勤者全員で唱和している。また、ネームプレートの裏面には理念を印字して、いつでも目にする事が出来る様にし、業務に務めている。	2項目からなる事業所独自の理念の中に「地域の皆様と心と心の触れあいを大切にする」という文言があり、地域密着型の意義を踏まえている。理念を事務所や共用空間に掲示し、職員は毎週の申し送り時に唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、交流会は出来ないが町内会から廻ってくる回覧板から情報を得ている。近所の保育園児たちが節目節目に先生の引率で来所してくれている。施設周りは代表者が、少しでも明るくと花を植え沿道を華やかにしている。	周辺を散歩する際に、近くの保育園児や神社への参拝客などと挨拶を交わしている。感染症流行前はボランティアの来訪があり、地域の行事にも参加していた。感染症収束後は以前のような地域交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	志は常に持っているが、中々外への発信の機会が得られず憂慮している。但し、町内会で何か動きがあれば参加し御手伝い出来る様考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は二か月に一度の書面会議になり、参加していただいている構成員の方々にホーム便り通信を利用して議事録の発送と次の予定会議に意見を求めている。当該会議内で検討し、次の通信の際に新しい議事録をお伝えしている。	地域包括支援センター、町内会長、有識者、家族が構成員となり、書面による会議を2か月ごとに行っている。感染症対策、身体拘束、サービス評価などをテーマに設定しており、テーマ項目を広げたいと考えている。議事録を構成員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電子メールで札幌市から多様な内容の情報をいただいております、職員全員に必要と思われる情報は、常にプリントアウトして回覧している。	運営推進会議に際して地域包括支援センターよりメールにて情報提供を受けている。現在は市役所等に直接出向くことは避けており、書類の作成などで不明な点があれば電話で問い合わせしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、外部の方が来所された時などコンプライアンスに関連した掲示物を閲覧出来る様に定置してある。毎月身体拘束廃止委員会の委員長を中心に検討会を実施し参加出来なかった職員には議事録を回覧し内容を伝えている。施錠時間は21:00～5:00とし、活動時間は施錠していない。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、やむを得ず身体拘束を行う場合の必要性、問題点などの話し合いを行っている。年2回以上身体拘束の勉強会を開催し、今後は勉強会資料を見やすく整理する方針である。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のテーマはローテーションで職員が二か月に一度、提案する様になっていて、各々が、色々な角度から自由にテーマを見つけ研修題材としている。虐待や身体拘束に関することは、社員間で注意喚起し敏感になっている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度に該当している方がいないが、権利擁護に関する内部研修は行っている。市から提供された拘束事案などの事例検討も内部研修に取り入れ、職員に対して常に身体拘束や虐待の発生にはならない様に、口にし意識付けする様心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	暫く新入居者はないが、年度変わりの改定があった時など、従来通り注意深く説明を行い、納得をもって手続きを行う様、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、自由な往来が出来ていない分、電話連絡をいただいた時、あるいは報告相談がある時などに、入居者に声掛けして、電話に出る事が出来る方は、電話口で家族と会話する時間を提供している。	家族から電話等で意見を聞いた際は、意見を介護記録に記入するとともに、申し送りでも共有している。利用者の写真を載せ、様子を詳しく記した「ベルⅡ通信」を毎月個人ごとに作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は話しやすく厚い壁を作らない開かれた環境を目指しており、会議内でも自由に発言できる時間を十分に設けており、自主的な意見が多く出ている。お互いに声を掛け合い、夜勤者など昼の状況が見れない職員にも、意見を求めている。	毎月のフロア会議や利用者ごとのカンファレンスで、職員同士が活発に意見交換している。管理者と職員は必要に応じて個別に話し合う機会を持っている。また、職員は身体拘束委員、オムツ発注、行事企画などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が一步前へ踏み出せる環境を作っている。代表者と管理者とのスムーズな構想やアプローチによってアイデアを生み出し管理者が現場の職員にヒントを出して、それに現場の職員が考えてみる等をする事で向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術に関する事は、職員の各々が関心をもっており、仕事中にも時々話題に上がり、職員間で情報交換をして共有している。それらの話題が自然に起きる様になった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区GH管理者連絡会に参加しているが、現在はコロナ禍により活動が停止状態が続いている。今年度新たにSNSでの連絡場所を設け、いつでも交流出来る体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近、違う棟から移動転居があり、本人からの聞き取りと以前いたフロアから情報を貰いながら改めて、全員で観察し課題を模索し、より良い介護になる為の介護関係を作るよう努力している。一週間を目途にケア検討を行う事としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族から困っていることや不安なことを聞き取り、個別ケアを実施し安心した生活が送れる様に検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が本人と家族の要望に耳を傾け、一緒に考え必要としている支援を見極め、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事出来ない事を把握し共有した上で出来ない部分の支援をして、日々の生活が家族に近い関係になる様に努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会には制限があるが、本人と家族の双方が穏やかに楽しい時間を過ごせるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は以前よりも、外部との接触が困難なため、手紙支援や電話連絡支援をして関係が途切れない様に努めてはいる。会話が難しい方々の対応には、会話は届けられないが、ホームの通信を利用し普段の様子を届けている。	以前は知人や友人が来訪している利用者もいたが、感染症の流行もあり難しくなった。感染症収束後は家族との外出や、職員の支援による馴染みの場所へのドライブなどを再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人一人の性格や人間関係の相性などを把握し、利用者各々の座席の配置に配慮して利用者同士が気持ちよく関わり合い、あるいは交流出来るように支援し、毎日にストレスを溜め込まない様に、知恵を出し合い決めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用関係終結後も、ご家族からお手紙をいただくことがあり、終了後であっても必要に応じて、グリーフケアの延長をしていることがある。それに対してもご家族から暖かいお言葉をいただく事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中で、本人の希望や意向などの情報を収集し、それらの情報は職員間で共有して、都度検討して本人の困りごとなどを減らし、その他不安軽減させる様に努めている。	4割の利用者が言葉で思いや意向を表現でき、その他も問ひかけの反応などから把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメントシートを作成しているが追記や更新は十分といえない。	センター方式のアセスメントシートのうち、変化のある内容(B-3シートなど)の定期的な追記や更新を期待したい。また、シートの閲覧や追記がしやすい綴り方の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や医療機関からいただいた情報を基に、その方の人となりを描き、要所所でご家族と接触がある時に、聞き取った情報を記録しデータを増やす努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	孤立した生活にならないよう、且つ個人の時間も尊重して、一番無難であろう状況を作る様に心掛けている。職員は随所随所で声掛けも行い一人一人の観察に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各々の、その時々々の状況を把握し定例の会議や家族との電話連絡の中で聞こえてきた意見などを考慮し、各入居者の担当職員からモニタリングを経て他職員と検討を行い計画を作成している。	介護計画を3～6か月ごと、および変化があれば随時見直ししている。担当者が作成するモニタリング表をもとに会議で評価を行い、次の計画を立てている。日々の記録は、計画目標の番号を記載しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は様子の変化など、気が付いた点を個人簿に記載している。特に協調に値する事柄は申し送りの際にほかの職員へ伝え、その日出勤している職員で検討し即座に対応することがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員が得意の分野を発揮してアクティビティとして携わり柔軟に取り組み実施している。自由な発想で取り組みを行っていることは、長くお付き合いがあるご家族の方々にも周知いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	共同で生活している以上、強制ではないが、どうしても同一行動をお願いすることもある。基本的には本人の行いを尊重しそれらを優先し見守っている。現在は外部との接触は中々求められない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、訪問診療を受診している。状況が悪化している時は、即時主治医に連絡し対応している。同時に家族にも連絡をして状況を説明し、専門的な病院の受診をすべきかを相談しながら、時には看護師が同行するなど受診対応している。	協力医による月1回の往診があり、歯科への通院は事業所が、その他の通院は主に家族が対応している。受診内容を個人ごとの動向記録に記載し、他に看護師が作成する記録も残している。	

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化を24時間常に見守る体制に看護師に連絡相談する事が出来、緊急時には主治医と連携できる状態になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換し入院時退院時の主治医と看護師の相互関係によって連携は常に出来ている。ただし、最近は入院する事態が発生していない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームに入居する際に、重度化した場合の対応指針、終末期の在り方及び看取り介護についての同意書をもって、ご家族には説明し同意書を交わしている。最終局面に於いても、再度同意されているか看護師が確認を行っている。	利用開始時に「利用者が重度化した場合の対応指針」と「看取りに関する指針」を利用者、家族に説明し、同意書に署名捺印を得ている。過去数年で2～3名の看取りを経験し、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍によって、外部からの講習会を受けられないが、殆どどの職員は過去に人工蘇生技能の講習会を受講している。また、緊急時の対応はマニュアル化されており、周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の自衛防災訓練がある。現在は外部から消防や町内会の皆さんの協力は得られないが、防火管理者がケースを想定して図上で講義を行っている。	年2回、夜間想定避難訓練を実施し、感染症流行前は消防の協力、住民の参加を得ていた。救急救命訓練を感染症収束後に再開する方針である。災害時に必要な備蓄品を用意している。地震時の対応についての確認は十分といえない。	地震発生時の初期対応やケア場面別の対応について、災害マニュアルや行政によるガイドブックなどを参考に定期的に話し合いを行うことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は、度々フロア会議の中でも上がり、通常の勤務の中でも気づいた時は、間違いではと判断したら職員間で声を掛け合い修正している。	年数回、接遇研修を実施している。利用者は「さん」づけで呼びかけ、申し送りはイニシャルや部屋番号で行っている。個人記録類は見えないように保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	限りなく、オープンクエスチョンで対応し、入居者の希望を聞き取る様に努めている。会話することが出来ない方は、ご家族からの情報を基に、その場にいる職員で検討し判断する事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し対応している。現在の入居者はホールで過ごすことが多く、その日のレクリエーション担当が楽しめそうなアイテムなどを提供し、閉塞感や孤独感を起こさないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択する事に制限はない。認知が進んでしまっている方の場合、職員がその場その時に合った物を選び支援している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物は、入居者に見える様に器に盛り付け、行事によっては一緒に下ごしらえをしたり、自分たちも、参加していることを意識付けしている。下膳できる方は台所まで運んでくれている。	1日30品目を目標に、彩りと同じ食材が続かない献立を考えている。利用者と一緒におはぎや焼きそばを作ったり、出前寿司を取ることもある。お正月は職員手作りのおせち料理でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量や、必要水分摂取量は決められており、その日の過不足は臨機応変に対応している。厚生省の食事摂取基準を参考に、一日30品目を目標に食事を作り、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、衛生保持の為に、口腔ケアを行っている。中には拒む方もいるので、職員の連携技で口腔ケアの方向につなげている。現状は全員が口腔ケアをする事が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意を感じられない方の、アクションやシグナルを察知し、トイレへ誘導したり、そうでない方には定期的に声掛けをし、促している。装着方法も職員間で情報交換しており、オムツ類の使用頻度は下がってきている。	全員の排泄を個人簿に記録し、排泄間隔や時間帯で適切な声かけを行いトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを使用したり、排便時はトイレに座ってもらうなど自立に向けて柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為の茶や、食物繊維を取り込みやすい食材を選択し提供。日々の排便状況は、逐一確認して記録しており、看護師と密に情報を共有して、下剤服薬の可否の判断にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人に合ったパターンで切っ掛けを作り、入浴に誘導している。体位が保持できず危険な状況に陥りそうな方は、予め二名体制で対応する様に、常に声掛けしている。	月火、木金の午後の時間帯で一人週2回の入浴を支援している。身体状況によりシャワー浴で対応する時は、温まれるように足浴も行っている。同性介助で職員と歌をうたったり、昔話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	月曜日から金曜日までは、身体を使うレクリエーションを「動の活動」、週末は、身体を使わない「静の活動」を心掛けており、適度な活動によって活発に動いており、安眠に繋がっていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人簿には、お薬情報を添付している。服薬に関しては、用意する担当者、服薬させる担当者、服薬を確認する担当者でトリプルチェックをして、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品として家族よりパズルなど提供していただいており、自由に行う事が出来るように定置されている。新聞や本も自由に見ることが出来ていて、レクリエーション以外は好きなように過ごしている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、出来る限り午前中の散歩を可能な限り実施した。昨年はコロナによって全体的に控える傾向にあったが、極力外部の方と接触をしない散歩を心掛け誘導した。コロナ禍によって他の応援は皆無だが、行き違う人たちには、入居者が、自然にご挨拶をしていた。	普段は車椅子の利用者も一緒に神社や保育園周辺など近隣を散歩している。感染症流行前は、ホワイイルミネーションや雪まつり、定山溪の鯉のぼり見学などに出かけていた。今後は畑や花壇作り、感染症の収束状況を見ながら外出行事も実施したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かける事は、感染リスクを負う事になるので実施はしていないが、購入希望があれば、職員が代わりに購入し本人に渡している。金銭はホームでお預かりして管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は文面や文字が思い出せないと言う状況になってしまった。電話が家族からあった時には、声掛けて電話に出てお話ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、職員は共用部の清掃・消毒を朝昼夜実施している。夕方、立位や歩行に問題のない方で床の掃除など、手伝いをして貰ったりしている。調光や空調は適宜職員が判断し調整している。季節感などは代表者が施設内で育てている花などを席に添えたり、ポスターによる季節に特化した絵をみんなに手伝いを貰い、毎月描いている。	居間を中心に居室やトイレ、浴室が配置された造りで窓際や廊下にソファがあり、利用者が好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。トイレや浴室の手すりにカラーテープを貼り、利用者が使いやすいように工夫している。季節感のあるクリスマスツリーや手描きの風物詩イラストが飾られており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、ソファが二脚あって、自由に会話できる環境がある。午睡帯にホールで職員とお話しして過ごす入居者もいる。基本自由に過ごして貰っているが、多くは午睡している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、慣れ親しんだ物の他、家族の写真やホームでみんなで撮った写真などを、フォトスタンドに貼り、いつでも眺められるようにしている。極力室外に影響されないよう考慮してベッドの配置もしている。	各居室に温湿度計を備え、使いやすいようにベッドや収納ケースを配置している。冬季は、室内のハンガーラックに濡れたバスタオルをかけて湿度を確保している。家族の写真や人形、小物類などを持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線は塞がないよう、職員間で声掛けをしている。施設内は全てバリアフリーになっている。忘れてしまいそうな事柄は、敢えて紙に書き、見て気づくようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム・ベルⅡ

作成日：令和 3年 12月 17日

市町村受理日：令和 3年 12月 17日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	入居時にはセンター方式のアセスメントシートを実施していたが、変化のある内容のシートの定期的な追記や更新がされていなかった。	入居者のセンター方式(B3シート等)情報を、6か月に一度フロア会議の検討議案に載せて、適宜更新または修正を行う。	センター方式の、特にB3シート等、更新あるいは修正出来る項目は各入居者担当が率先して聞き取りを行い、フロア会議で検討後書き替えて、常に最新情報をもって記録し、担当以外の職員にも広く共有し支援する。	6か月
2	35	地震発生時の初期対応やケア場面別の対応について、災害マニュアルが不足していた。	年二回実施している火災訓練に、地震対策に関するマニュアルを追記する。	行政機関で発行しているガイドブックなどを参考に、現在使用している火災防災のマニュアルに追記し、半年に一度行われる訓練日には、職員で話し合いする時間を設け注意喚起していく。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。